



記憶を後世に語り継ぐ

申良基地の様子を説明する河野良幸さん（右）



野里国民学校の校庭で整列する特攻隊員

あなたの戦争体験談を教えてください

「鹿屋の戦争の歴史を知らなかった…」これは平和学習を受けた子どもたちが書いた感想の中で、最も多かったものです。

終戦から70年以上が経ちましたが、残念ながら若い世代への継承が十分に行われているとは言えません。また子どもたちの祖父母が戦争を知らない世代ということも珍しくなくなってきています。

今の若い世代が、またその次の世代に語り継いでいくためにも、皆さんの戦争体験談が必要です。

あなた自身が経験したことや、周りで起こったことなど、電話、FAX、お便りなどで教えてください。市認定の平和学習ガイドと戦争遺跡調査員がお話をお伺いします。

市ふるさとPR課（2階）

☎0994-31-1121

FAX0994-40-8688

furusato-pr@e-kanoya.net

〒893-8501

鹿屋市共栄町20-1

記憶を残す
戦争の記憶を後世に残すための取り組みの一つに、戦争体験談の聞き取りがあります。7月25日、市認定の「平和学習ガイド」6人が、2班に分かれて市内の戦争体験者に聞き取りを行いました。申良町で行われた聞き取りでは、申良町岡崎の河野良幸さん（85歳）が当時の生活の様子などについて説明。ガイドも申良基地の施設などについて熱心に質問を行っていました。河野さんは「終戦間際には授業が中止され、銃剣の扱い方を教わったり、掩体壕作りがあったりして勉強することができませんでした。戦争を二度としたために、地域で起こったことを子どもたちに語り継いでいきたい」と話していました。

記憶を語り伝える
市では、聞き取った戦争体験や鹿屋の戦争の歴史を後世に伝える取り組みを行っています。昨年度は県外から訪れた多くの修学旅行生が、戦跡を巡ったり、平和学習ガイドの話の聞いたりしました。また市内の学校に向けた取り組みも行っており、7月6日に第一鹿屋中学校で行われた平和学習では、平和学習ガイドの迫睦子さんが聞き取った体験談や野里町での特攻隊員の様子、太平洋戦争の開戦のきっかけとなった「鹿屋会談」の話などを交えながら、戦争の悲惨さと平



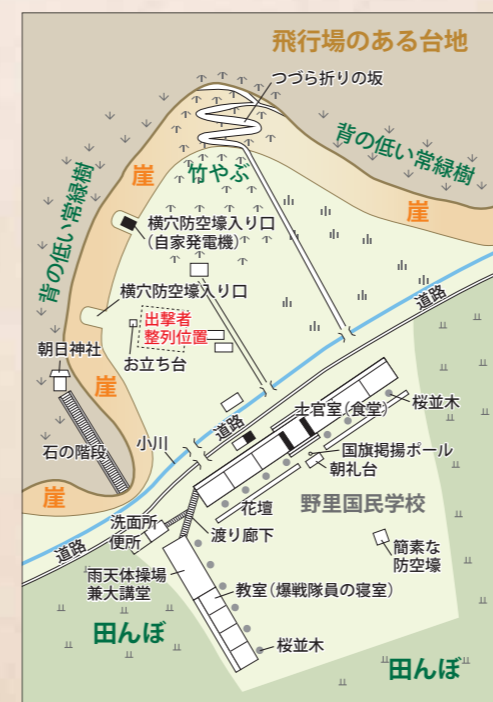
ガイドの話熱心に聞く生徒たち

和の尊さを訴えました。若い世代にとって70年以上前の戦争の話は、なかなか実感が沸かないものですが、身近で起こった出来事や体験談を聞くことで、生徒たちからは「生まれ育った野里に特攻隊員が寝泊りしていたとは知らなかった」、「同年代の人たちの当時の話を聞いて自分のことのように考えることができた」といった感想が寄せられました。

野里国民学校の校庭で整列する特攻隊員



桜花の碑



元特攻隊員の証言を基に描いた当時の地図
「出撃者整列位置」の辺りに現在桜花の碑がある

現在の野里小学校の南東500mほどの場所（朝日神社付近）にかつて野里国民学校がありました。国民学校（初等科）とは現在の小学校にあたり、野里国民学校の校舎は、戦況が厳しくなった昭和20年春頃から鹿屋基地を出撃する特攻隊員の宿舎として使用されました。鹿屋市史には、麦の収穫を手伝ってくれた特攻隊員に対して、感動した野里町民が、当時大変貴重だった牛1頭、豚3頭、鶏卵数千個を慰問品として届けたという記録が残っています。

特攻という零式艦上戦闘機（零戦）を思い浮かべる人が多いと思いますが、この野里国民学校には、桜花と呼ばれる兵器に乗って敵に突入した第一神風桜花特別攻撃隊神雷部隊桜花隊の隊員たちも宿泊していました。桜花は頭部に1,200kgの爆弾が取り付けられており、一式陸上攻撃機という航空機で敵の上空まで運ばれた後、切り離されて突入する人間爆弾で、わずかな時間と距離しか飛行することができませんでした。さらに総重量が2トン以上あ

ることで、運搬する一式陸上攻撃機のスピードが低下し、突入前に迎撃される機体も多かったと言われています。昭和53年には、出撃した隊員の魂を祀るため、元特攻隊員の小城久作氏によって桜花の碑が建立されています。また、近くには当時の国旗掲揚台の一部や特攻隊員が洗濯や風呂などに使った小川などが残っており、当時の様子を伺いすることができます。市では、今年度中に野里国民学校周辺の整備を行う予定です。

特攻の記憶を刻む 野里国民学校跡周辺